

平成30年度第2回酒々井町産業振興推進会議 議事録

日 時: 平成31年1月24日(木) 13:30～15:15

場 所: 酒々井町役場分庁舎2階第2多目的室

出席者: 大谷文男委員、小坂明宮己委員、織田孝志委員、相本泰裕委員
大網敬雄委員、太田謙一委員、篠崎慎一委員、関篤史委員
(事務局)経済環境課長、経済環境課事務局

- 会議次第:
1. 開 会
 2. 会長あいさつ
 3. 報告事項
 - (1) (仮称)酒々井町地域創造発信拠点施設の進捗状況について
 - (2) 商工業者アンケートのとりまとめ状況(中間報告)について
 4. 議 題
 - (1) 前回未整理部分の課題について
 - (2) アンケートを踏まえた課題の再整理について
 - (3) 課題に応じた対策の検討について
 6. その他
 7. 閉 会

(会議要旨)

1. 開 会

2. 会長あいさつ

引き続き皆さんと一緒に解決策の議論を進めていきたい。

事務局から会議の定数報告。

委員数10名のうち8名出席があり、過半数以上の出席となり会議は成立。

中里委員、石渡委員については所要により欠席。

なお、傍聴人はなし。

3. 報告事項

(1) (仮称)酒々井町地域創造発信拠点施設の進捗状況について

(事務局から報告)

- ・建設位置、目的と経緯、現在の契約状況、完成時期について説明

(意見・質疑等)

- ・開業日はいつごろになるのか。

→条件が整い次第、平成31年度中なるべく早い時期を予定。

- ・アウトレット内コミュニケーションセンターとの兼ね合いはどうなるのか。

→コミュニケーションセンターは物販を行わず情報発信の拠点。こちらは物販も含めた中小企業振興を軸に、観光振興も目的とする。町内への周遊を進めるための施設としたい。

- ・運営体制はどのようにするのか

→町の直営施設。中小企業振興には専門家の力をお借りしたいので派遣や相談日の設置を検討している。

- ・施設が必要となるニーズはどこにあったのか。

→基本条例の制定が2年前。付随したこの会議をやる中で中小企業振興、特に個社支援が必要となると感じ、できる限り振興の間口を広げる観点から町が計画したもの。

- ・これからどう育つのか、あるいは商工業者自らが育てるのか、見ていきたいと思うし提言していきたいと考える。

- ・どう動いていくのか、内容を早めにもらいたい。

(2) 商工業者アンケートのとりまとめ状況(中間報告)について

(関委員から報告)

- ・中小企業、小規模事業者の意見集約を目的に、経営課題に関するアンケートを商工会で実施
- ・250件配付、回収率は現状10%だが40%目標で回収活動中
- ・経営について、3～5年後の展望としては現状維持が6割、拡大・縮小がそれぞれ2割との回答

- ・従業員数5人以下の小規模事業所では縮小との意見が多い
- ・従業員数6人以上の事業所では拡大との意見が多い
- ・従業員に関して、全体で見ると適正との回答が大半
- ・従業員数5人以下の小規模事業所では適正または過剰が7割
- ・従業員数6人以上の事業所で不足または適正が7割、過剰という回答はない
- ・不足する理由は応募と企業側希望人材とのミスマッチが多く、次に募集しても応募がない、採用してもすぐやめてしまう、となっている
- ・従業員定着についての課題がある事業所は、賃金や福利厚生で対応を検討との回答あり
- ・売り上げ拡大に向け取り組むべき課題について、顧客ニーズに対する対応向上が7割強を占める。
- ・従業員数5人以下の小規模事業所では顧客ニーズに対する対応向上が圧倒的多数
- ・従業員数6人以上の事業所になるとサービスの高付加価値化や新製品等の開発が7割を超える。
- ・営業販売体制の見直し強化も6割が回答。
- ・従業員数が不足と回答している事業所は常に次の展開を考えていると思われる
- ・設備投資に関して、実施予定のない事業所が多数
- ・従業員数5人以下の小規模事業所ではほぼ予定がない
- ・しかし、従業員数6人以上の事業所では必ず設備投資がある、定期更新や新規投資
- ・内容は車両運搬具の入れ替えが多数
- ・必要な支援策について、中小企業税制の拡充、資金繰りの支援、人材確保の支援の順で回答が多い
- ・従業員数5人以下の小規模事業所では税制拡充、地域活性化の支援、中小企業支援策の情報発信、補助金等の申請手続き支援を求める意見あり
- ・従業員数6人以上の事業所では資金繰りの支援が多い。税制拡充が次に多い
- ・中間報告なので取りまとめができ次第ご提供したい

(会長から)

- ・商工会として、予算の制約はあるが来年度もアンケート事業は継続実施したい。ニーズの変化もつかんでいきたい。まとまったら再度報告する。

(意見・質疑等)

- ・中小企業税制の支援拡充を求める声があるが、やり方がわからないところが多いのではないか。小規模なところでは事務員一人でなんでもやる状態であり、制度はたくさんあるがやりかたをつかむのが大変。時間が取れない。読みこなすのも結構難しい。
- ・既存制度の周知に関しては商工会や町で積極的に動いていければいいと思う。利用促進はアドバイスが大事なので、手をあげたところを拾い上げていきたい。

4. 議題

(1) 前回未整理部分の課題について

(事務局から説明)

- ・前回までの議事やアンケート等を取りまとめ、各分野別の課題やおおまかな事業イメージを反映させた結果シートを作成。
- ・前回会議では、商工業分野の雇用面の課題と方向性については議論が進められ、おおまかな事業イメージを暫定的に入れていたところ。今日はこれ以外の部分についてご協議願いたい。

(意見・質疑等)

<農業分野について>

- ・日程調整がなかなか難しく議論が進められていないので、関連分野の委員の皆さんで話をしておいてほしい。事務局とも相談する。

<外国人の雇用について>

- ・専門の派遣会社があるのでそういったところを活用してすすめていくことになるのでは。雇用の仕方などわからないところが多く、情報をえるところから始まる状態。
- ・町内では外国人を多く雇用している企業はあるのか。業態によって違いはあるが実例のある企業に言って話を聞く機会があるといい。
- ・行政の役割としては企業間の情報のやり取りを仲立ちをすることなのかもしれない。今は現地に行かなくてもスカイプなどでも面談できるので方法の一つとも思える。
- ・分野、業種によって、企業次第で求められる能力が違ってくる。コミュニケーションの部分でどうしても難しいところがあるので、言葉を介さなくても同じことができる業種であればハードルが下がるのではないかな。
- ・地域と外国人との共生という観点では、町の果たす役割は大きい。現段階では具体的にどうするというのがあわけではないが。
- ・食品製造などの労働集約型産業では導入事例は多くある。ただ、そういうところにはノウハウがあるが、小規模企業への共有が難しい。小規模だけどうまくいっている事例があるといいのでは。
- ・建設業関係では、単純作業が多い、たとえば解体業、足場、基礎など、技術が比較的短期で習得できる分野では事例がかなり多い。
- ・反面、例えば大工のような技術習得に時間がかかる業態は、働ける期間に大きく影響される。4年程度となると技術習得が終わったら帰国してしまう。そうなると続けていけない。そういう心配がある。長年いてもらわないとできないような、職人的な作業は難しい。
- ・外国人側も日本で就職したいができない、という状況も聞いている。そういう方たちを採用するかどうか。日本的な雇用概念と外国人の考える雇われ方の概念のズレがあるようだ。

<高齢者雇用について>

- ・町のシルバー人材センターの需給状況はどうなのか。例えば需要に対して仕事を受け切れていない状況なのか、人手が余っている状況なのか。
- ・近隣では企業として仕事の発注をしているところもあり、お願いしてすぐにやれます、という感じではないので需要は多いように感じる。

・役場の仕事をシルバーで受けてもらっているものも結構多く、働ける高齢者は結構いるのではと考えられる。

・人の方が少ないということであれば、対象高齢者にシルバーへの登録を勧めるのかも方法かと思う。

・需給を数字で把握できたらいいと思う。

<人材発掘について>

・他市町では集団面接会を外部委託で実施していたり。市内企業のインターンや就労体験をやっているところもあった。高校生対象で、商工会が模擬面接を実施するところもある。予算や求人する企業規模などの必要な要素があり、そのまま町にフィットするかはわからないので、参考にしながら町の状況にあった方法を考えてほしいと思う。

・県産業振興センターがやっているジョブカフェでの人材派遣会社への情報提供の仕組みなどもある。人材派遣会社を使うことになるので相応のコストはかかる部分もあるが、そういう制度がどのくらい地域に浸透しているのか。制度としていい制度だと思っている。

・町商工会青年部では小学校授業の一環で、キャリア教育支援事業を実施した。地域の仕事に対する理解や魅力を深めていくことが将来の人材発掘につながるのではないかと。

・面接会をやっているが、応募者が過去より大幅に減ってきている。今までと同じような募集方法では人が集まらないので、就業環境を変えたり、たとえば短時間勤務を可能にするような仕組みを作ったりも必要。ここで働くメリットはなんなのかという点を既存従業員や新規募集の際に発信することも重要。

・求人応募前に応募者側の不安を取り除くような、たとえば相談窓口の設置なども考えられる。

・企業が集中している南部地区で考えると、酒々井駅発着バスの始発時間が既存企業の始業時間とマッチしていないという声も聞いている。

<設備投資の促進について>

・一定規模のところは定期的な投資があり、小規模ではそうはなっていない、とのアンケート結果。小規模だと維持がやっとなのかなと感じる。

・各種制度のPRが大事なので商工会として浸透を図っていきたい。

<情報発信について>

・県の産業情報ヘッドラインというメルマガがある。国、県などの施策を発信しているのでご利用いただけるとありがたい。

(2) アンケートを踏まえた課題の再整理について

(会長から)

・未整理の課題があるので持ち越しとする。

(3) 課題に応じた対応策の検討について

(会長から)

・今出た課題について即答も難しいし、どういう情報があるのかとりまとめていくのが第一。そこから掘り下げていきたい。

(事務局から)

・各課題に対する既存支援措置や数値目標をまとめ、個別議論を促進するための事業シート案を提示。

(意見・質疑等)

・議論の土台となるデータがほしい。現状数値とか、すべてでなくてもいいので。酒々井はこうだ、というのを落とし込みながら作っていくといいと思う。

・他との比較もあるとわかりやすい。他の自治体がどうしてるのか等

。

5. その他

特になし

6. 閉会